

意見陳述

令和6年10月24日

宮澤カトリン

私はドイツで日本語を学び、日本で暮らすようになって10年近くになります。

ドイツでも日本でも、気候危機は私の安全な生活を脅かしています。両親が住む町の近くでは、山火事や洪水が発生しています。

日本は非常に暑くなっていて、夏にはもうエアコンなしの生活や長時間の外出は想像できません。今年も10月まで30℃を超える日が続いており、夏がどんどん長くなっているため、外で15分過ごすのも辛くなってきました。ジョギングや外での運動はできません。今年の7月には、夫が熱中症になってしまいました。これから家族を作ることに非常に不安を感じています。子どもたちは無事に過ごせるでしょうか？私が子どもの頃、夏休みは外で遊ぶのが一番の楽しみでした。でも、私の子どもたちはきっと「夏休みだ、一日中家にいなければならない」と言うことになるでしょう。

私が気候変動について声を上げるようになったのは、2019年にフィリピンのレイテ島に友人を訪れたことがきっかけです。レイテ島は2013年に最強の台風に襲われ、7000人が亡くなってしまいました。最もCO2を排出していない人々が、最も深刻な被害を受けているのです。

しかし、日本でもすでに私たちは気候変動の影響が深刻化していることを肌で感じています。私たちは自分たちで声を上げ、1.5°C目標の達成に向けて行動していかなければなりません。

私たち若い世代は、日本でも世界でも、この危機に最も影響を受ける世代です。毎年夏は暑くなり、自然災害はより強く、頻繁に発生しています。目標を達成するためには、私たちの CO2 排出量を 2030 年までに半分くらい減らさなければなりません。被告がそのための十分な行動を取っているとは思えません。これらの排出は、再生可能エネルギーへの転換によって避けることができるのは証明されています。私は、自分やこれからの家族が、安全な地球で暮らす権利を持ちたいのです。しかし、その権利は、化石燃料産業が CO2 を排出し続けることで脅かされています。

同様の訴訟は世界中で提起され、いくつかの成功事例もあります。私は、この訴訟が一人ひとりの声を大きくし、影響を与える場だと信じています。気候変動は、地球上の全ての人に関わる問題です。私たちの未来が破壊されることを許してはいけません。この訴訟の被告となっている発電事業者は、1.5°Cの目標に基づいた排出削減を義務付ける必要があります。裁判所には、私たちの未来が重大な危機に直面している現状をしっかりと受け止めていただきたいと願っています。